

2026（令和8）年度神奈川県立保健福祉大学大学院
保健福祉学研究科保健福祉学専攻博士前期課程入学試験
出題意図及び解答（栄養領域）

一義的な解答を示せるものは解答を公表し、一義的な解答が示せないものは、出題意図を公表しております。

問題（栄-1）

（1）『出題意図』

保健福祉学研究科 栄養領域で学修するために、多職種連携に関わる事象に関心をもち、管理栄養士の専門能力と役割に関する理解を問うとともに、具体的な栄養管理の実践について自分の考えを説明する力を問うています。

（2）『出題意図』

栄養領域における学修および研究の遂行にあたり、食品の微生物汚染に関する基本的理解と、それを実際の衛生評価と対策に結びつけるための思考力および論述力を問うています。

（3）『出題意図』

脂質栄養学の基本事項を正確に理解し、健康課題と結びつけて自らの言葉で説明する力を問うています。

（4）『出題意図』

研究デザインによるエビデンスレベルの比較に関しては、管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）にも記載されている管理栄養士としての基礎知識であり、博士前期課程において人を対象とする医学・栄養学的な研究を実施する上でも必要となる能力であり、その部分的理解ではなく、本質的に研究デザインの違いを理解しているか判を問うています。

（5）『出題意図』

専門職として、最新の国際的知見を正確に理解・整理し、実務に応用する視点を問うています。

(6) 『出題意図』

食に関する個別的な相談指導は栄養教諭の職務であり、専門職として個別的な相談指導を適切に実施するための基本的な知識と実践的な視点を問うています。

(7)

① 『解答』

体重減少、低 Body Mass Index (低 BMI)、筋肉量減少、食事摂取量減少/消化吸収能低下、炎症/疾病負荷

② 『出題意図』

近年の診療報酬改定により、特定の病棟にて入退院時の栄養状態の評価に基準を用いることが要件となったことを受けて、多くの病院にて GLIM 基準による低栄養診断が臨床現場で導入されつつある。しかし、多職種連携を基本とする医療機関などでは体制構築が十分ではないことにより、GLIM 基準の導入・運用が必ずしも容易ではない。また、対象患者の状況によってもその評価は不十分（不正確）となりやすい現状がある。このような臨床栄養領域で近年問題となっている事例に対する知識、あるいは現状に対する的確な分析を通じて研究課題を設定し解決策を構築する力を問うています。

(8) 『出題意図』

博士前期課程において、低栄養高齢者の課題について、公衆栄養プログラムの展開の観点から、その手法の特徴を理解し、説明できる力を問うています。

(9) 『出題意図』

給食経営管理に携わる管理栄養士にとって、契約方式の理解は実務上、非常に重要である。特に近年、食料品価格の高騰が続く社会情勢の中では、適切な契約判断を行う力が一層求められている。以上の観点から、契約方式に関する基本的な知識とその特徴を的確に説明する力を問うています。

(10) 『出題意図』

スポーツや特定保健指導の現場では、サプリメント利用についての指導が多くなってきている。サプリメントの利用・活用に関し、理論的に指導できる力を確認するとともに、専門分野の知識に基づいた論理的思考力、文章構成力、文章表現力を問うています。

問題（栄-2）

（1）《解答》

A: carotenoids、 B: yolk

（2）《解答》

chicken

（3）《解答》

Marigold flowers

（4）《出題の意図》

カロテノイドは、酸素の有無によりキサントフィル類とカロテン類に大別され、前者の代表的な分子がルテインである。文章中には、キサントフィル類に関して、解答の根拠となる記述がある。この問題は、カロテノイドの分類に対する知識を問うと同時に、その知識を活用して論理的に表現・説明する力を問うています。

（5）《出題の意図》

鮭・鱈やエビ・カニなどの海産物には動物性カロテノイドの代表的な分子としてアスタキサンチンが含まれていること、そしてそれらは、動物個体内で合成されるのではなく食物連鎖の結果として体内に蓄積されること、さらに体内でたんぱく質と結合している場合はくすんだ色合いであるが、茹でられる等によりたんぱく質から解離すると鮮やかな赤色を示すこと等は、栄養系の大学では履修しているはずである。また、食品素材は部位ごとに成分含有量に濃淡があることや、調理・加工時に廃棄部位が生じることも、栄養系の大学では履修しているはずである。この問題は、それら備えておくべき知識を背景にして、正しい日本語訳を導き出す力を問うています。